

第2章 令和3年度の取組概要

1. 本学教員に対する本プロジェクトの取組

(1) FD 集会（令和 3 年 7 月 21 日）

「協働学習支援ツール『コラボノート EX』を使ったワークショップ」

【企画の趣旨】

GIGAスクール構想の下、小中学校では「主体的・協同的な学び」を実現するためにタブレット端末が導入され、様々なアプリケーションが使われています。その中でも、協働学習でよく使われる方法である、模造紙に付箋を複数人が同時に貼っていくようなイメージで使えるコラボノートEXについては、本学でもユーザ数400までのプランを利用しておらず、愛知県内の名古屋市、豊橋市、岡崎市、蒲郡市、幸田町の小中学校でも採用されています。初めてでもわかりやすく、簡単な使い方で、遠隔授業でも協働学習ツールとしてご利用いただけます。大学の授業や、模擬授業などでご利用いただけるのはもちろんのこと、ALルームでiPadを使って試してみることもできます。コラボノートEXは6月にバージョンアップが行われ、よりきめ細かいグループ学習ができるようになります。

株式会社ジェイアール四国コミュニケーションウェアより講師をお招きして、コラボノートEXを体験しながら、実際の授業で活用するイメージを本学の教職員および将来教員になる学生等に持っていただくことを目的としたワークショップ型研修を企画します。

【実施概要】

開催日：令和3年7月21日（水）

開催時刻： 13：30～15：00

場 所： 愛知教育大学 教育未来館 多目的ホール

開催方法： 対面方式、Teams でのオンライン方式

参加対象： 大学教職員および学生

講演者：朝倉 浩之（アサクラ ヒロユキ）氏

株式会社 ジェイアール四国コミュニケーションウェア

中部営業所 所長

集会タイトル：「協働学習支援ツール『コラボノート EX』を使ったワークショップ」



【プログラム】

時刻	時間	項目	担当者
13:10～		受付開始	
			司会：梅田先生
13:30～13:40	10分	開会あいさつ	野田学長
13:40～14:50	70分	協働学習支援ツール「コラボノートEX」を使った ワークショップおよび質疑応答	朝倉氏
14:50～15:00	10分	閉会あいさつ	飯島先生

【開催報告】

2021年7月21日 全学FD集会「協働学習支援ツール『コラボノートEX』を使ったワークショップ」を開催しました。

コラボノート EX は、オンライン上で、模造紙に複数人が付箋を貼り、瞬時に可視化・共有できる協働学習支援ツールです。GIGA スクール構想の下、愛知県内でも名古屋市、岡崎市、豊橋市をはじめ多数の自治体で活用されています。

7月21日（水）に、当ツールを実際の授業で活用するイメージを持つことを目的とした、ワークショップ型の全学 FD 集会を、教育未来館の多目的ホールで開催しました。講師に、当ツール開発元の(株)ジェイアール四国コミュニケーションウェアから、中部営業所所長の朝倉浩之氏をお招きし、対面およびオンラインにより、教職員、学部・大学院生の計38人が参加しました。

はじめに、参加者は、手元のタブレットで、付箋の作り方や貼り方などの基本操作を体験し、共有する方法を学びました。次に、本学の小ネタを持ち寄って、「愛教大みいつけた！新聞」を作成するグループワークに取り組みました。各グループは、「学食のうどん・そばが復活！」、「自然科学棟が改修により綺麗になりました！」など、写真付きの小ネタを模造紙に掲載した新聞を作成し、お互いの作品を共有しました。



コラボノートの使い方について説明
を聞く参加者



講師の朝倉浩之氏から説明を受ける参加者



手元のタブレットで付箋の使い方を体験

最後に、朝倉氏から「思考ツール」を使った実際の事例紹介がありました。終了後の参加者のアンケートでは、「事例により、小・中学校の授業場面で使うイメージを持つことができました」、「今後の教育現場で取り入れてみたいと思いました」などの感想が寄せられ、GIGA スクール構想における学びの在り方について理解を深める機会となりました。

FD集会の様子

【司会】 それでは時間になりましたので、始めさせていただきます。

本日はお忙しい中、FD集会にお集まりいただきまして、ありがとうございます。本日、司会を務めさせていただきます情報教育講座の梅田と申します。よろしくお願ひいたします。

それでは、まず初めに開会のご挨拶を野田学長よりお願ひいたします。

【学長】 皆さん、こんにちは。

研究室のほうでも、たくさんの皆様がオンラインで参加していただいているというふうに伺っています。今日、外は熱風が吹いておる大変暑い日になりましたけれども、御多用の中、ありがとうございます。

今日は、JR四国コムウェアのほうから中部営業所の所長の朝倉様、それからサポートとしてA様とB様に来ていただきました。豊橋から来ていただきましたので、JR四国ですので最初私は香川県から来ていただいたのかなあと思いましたら、そうではなくということでございました。

香川県はうどん県でございまして、私も何度か高松には行ったことがあります。どうしてJR四国がということでございますけれども、多角経営をしないとなかなか経営が成り立たないと先ほど伺いました。どこも大変だなあと思います。

例えば、一太郎というソフトがございましたね。若い皆さんは分からぬと思いますけれども、私が大学に着任する頃まで私も使っておりましたけれども、あれも確かに四国、徳島県ですかね。なので、そちらのほうはこういうことが盛んなのかなあというふうに、ちょっと主観的ですけど思いました。

さて、今回の教育課程の改定の折に、アクティブ・ラーニング、主体的・対話的で深い学びというものが出てきました、協働的な学び、協働学習というのが盛んに行われるようになりました。私は、生活科総合を専門にしておりますので、見る授業、見る授業、付箋紙を使っておると。ちょっと否定的な言い方ですみません。見る授業、見る授業、ホワイトボードを使っておると。また、思考ツールを使っていると。だから、付箋、ホワイトボード、思考ツールは三種の神器みたいな形で、それを使うための授業も散見されまして、いいのかなあと思っておりました。

ついにそういう紙面ではなくてこういったところでそういうことを展開できるということで、学びを深めるには大変いいツールだと思いますけれども、使い方をよく考えなきゃいけないなあと。その使い方も含めて、今日、学習できるといいなあと思っております。どうぞ朝倉様、よろしくお願ひします。

【司会】 ありがとうございました。

それでは、プログラムに従って進めさせていただきますが、始める前に2点お願ひと、進める上の確認があります。

まずお願ひですが、1点目として、本FD集会は文部科学省の機能強化経費の報告書やニューストピックとしてまとめます。発話、質疑応答の内容、ワークショップの様子などを記載させていただきます。個人が特定されないようにいたしますので、御協力をよろしくお願ひいたします。

2点目ですが、このFDを録画し、学内のみで共有させていただきます。そちらについてもよろしくお願ひいたします。

次に、確認になります。既に御連絡はしておりますが、本FDはワークショップです。グループ活動があるのでよろしくお願ひいたします。特に、Teamsで御参加の方は、今見ているTeamsと、もう一つコラボノートというアプリを使います。この後、講師の朝倉先生のほうからワークショップの中でコラボノートへのログインの指示があると思いますが、可能であれば、その際Teamsとは別の端末、例えばタブレットPCなどでログインしていただいたほうが活動がしやすいと思います。ちなみに、ログインIDは既にメールでお送りいたしておりますので御確認ください。

あと、最後になりますが、今回のFDは演習つきのハイフレックスで行っておりますので、何か不手際がございましたら御容赦ください。

ということで、朝倉先生、よろしくお願ひいたします。

【講師（朝倉）】 先生方、改めましてこんにちは。

今学長のほうからも御紹介いただきまして、JR四国コムウェアの朝倉と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

今回、対面とオンラインと両方で開催ということで、いろいろ不手際もあるかと思いますが、皆様どうか御容赦いただけたらと思います。

では、今学長様から御紹介いただいて、先ほどちょっと御挨拶の際に香川にも実は少しうかりがあるんですなんていうありがたい言葉をいただきまして、今回、華麗なる経験もちょっと持ち合わせていないものですから、会社の紹介、香川の紹介というところで、ちょっと置き換えをしたいなあと思いますので、少しだけちょっとお付き合い願えたらと思います。

コラボノートEXということで、こちらを使ってちょっとしたスライドを御準備させていただいている。画面のほうですね、左のほうがスライド1・2・3とあると思うんですけども、イメージとしましては、パワーポイントのような感覚のツールになります。これらを先ほど野田学長様からお話がありましたように、協働的な学びというところで、ネットワーク上のみんなで同時に見たり書いたりできるツールとなっているんですね。そちらを使って今回まとめさせていただきました。

題して、香川ってこんなところです。

香川ってこんなところという、ちょっとスライドを御用意させていただいている。実は、JR四国コミュニケーションウェアが正式名称なんですが、本社の所在地が香川県の高松市というところで、屋島の近くにございます。ここですよということで描いてあります。

皆様、先生方、どうですかね。香川にいらっしゃったことは何度かありますでしょうか。ありがとうございます。

実は、我が社あるあるというものを早速御用意したんですが、名前が長いんですね。ですので、とにかく社名を覚えていただけないというのが実はあります。先ほども皆様からお気遣いのお言葉をいただいたんですが、へえ、四国から来られたんですかというところでおっしゃられます。私は生まれも育ちも豊橋で、ぱりぱりの三河弁使いでございます。あと、お客様が小・中学校様、学校等が多いものですから、修学旅行の営業と間違われるんですね。ちょっとこんなお恥ずかしい話があったんですけれども、ユーザー校、もうコラボノートを使っていただいている学校様なんですが、こちらの学校様の情報主任の先生をお電話でお取次ぎをお願いしたんですが、修学旅行なら教頭先生ですよということで、そんな実はエピソードもあったりするんですね。あと、これは本当に皆様、最近注意されているなあということなんですが、本当にJRさんですかということで、疑いのまなざしで見られることが多いんですね。なかなか校長先生、教頭先生にお取次ぎいただけないケースもございます。というのが、実は我が社あるある、いわゆる悩みでございます。ですので、どうか社名が長いものですから社名を覚えてくださいとは言いませんが、これを機会にコラボノートの名前だけでもぜひ覚えていただけたらと思います。

先ほど、野田学長様からお話があったんですが、高松、香川というと、うどん県なんて言われています。かけうどん、ぶっかけうどん、釜揚げ、釜玉なんというのが、最近いろんなお店が全国にできているので皆さん御存じかと思うんですが、さすがに締めのカレーうどんという言葉は割と先生方、御参加の皆様、知らない方も多いんじゃないかなあと思うんですね。夜のお楽しみの後に、私たちはちょっとラーメンを食べに行こうとかいう流れになることが多いと思うんですが、香川の高松においては、深夜営業3時ぐらいまでやっているんですけども、カレーうどんをみんなでせっせと食べに行くんです。場合によっては行列もあるというところです。もし今後、興味が、香川のほうに行かれるチャンスがありましたら、ぜひお試しいただけたらと思います。多分、カレーうどん提供店が数軒あります。

あと、うどん県ということで、実は香川県の都市伝説なんていうものがあります。御存じの方いらっしゃいますかね。どうでしょうかね。実は、信号機よりもうどん屋さんのはうが多いんじゃないのというような都市伝説だとか、コンビニ

の店舗数より多いんじゃないのかという都市伝説があります。御存じの方いらっしゃいますか。そうですよね、実は、もうあまり時間もないんであれなんですけれども、正解は②のほうなんですね。信号機の今の台数が大体1,000台を優に超えているんですけども、コンビニが大体420軒ぐらいですね。それに対してうどん屋さん、大体500店舗ぐらいということで、コンビニの店舗より多いという統計が出ているんですね。決して、香川が田舎なのでコンビニが少ないわけではないですが、一般的な数はあるんですが、それだけうどん屋さんが多いというところなんですね。ちょっと今、昨今の時節柄、お店をやめられているところもあると思うので、この500軒という数字が前後するかもしれません、御容赦ください。

最後に、最近かなりポジティブなワードとして、香川ってうどんだけじゃないんだよというような話も出ていると思うんですが、意外と日本一がたくさんあったりとか、世界一もあったりします。おいしいものもうどんだけではなくて、骨付鳥という鳥を焼いたものですね。オリーブハマチ、かつしや焼き、小豆島そうめんということで、その他もろもろおいしい食べ物もございますので、なかなか今、この御時世、ちょっと遊びになんていうのも難しいかも知れませんが、そのタイミングが参りましたらぜひお願ひしたいと思います。

すみません、長々とちょっと紹介させてもらったんですが、ようやくコラボノートの本題のほうに入りたいと思いますので、よろしくお願ひします。

もう皆様、コラボノートにはログインしていただいているという状況でよろしかったでしょうか。弊社のA、Bのほうが今、会場をうろうろさせていただいているので、もし御不明な方いらっしゃいましたら、御遠慮なくお声がけいただけたらと思います。

ログインをしていただきましたら、授業中のノートという中で、コラボノートEXのワークショップという名前のノートを御準備しています。こちらをまず開いた状態でお手を止めていただけたらと思います。

よろしいでしょうか。それでは、コラボノートを今開いていただきまして、画面の左上に練習ページという項目が表示されていると思いますが、この状態が正しい状態でございます。

これから画面の御紹介、御説明をしたいと思うんですが、画面の左側のほうにページという概念がありまして、タップいただきますと、それぞれのページに移動することができます。画面真ん中の白い紙、こちらが皆さんで同時に見たり書きたりすることができる紙、いわゆる模造紙の部分ですね。さらに、画面右のほうにテキストですとか黄色付箋、ピンク付箋というものがあるんですが、こちらは文字を書いたりとか写真を貼ったりしていただくための道具が並んでいます。

まずは、道具の中でお好きな付箋をお選びいただいてよろしいですか。黄色、ピンク、緑、青、オレンジ、紫ということで、6色からお選びいただけますので、どちらでも構いません、お好きなものをお選びいただきまして、模造紙の上でタップしてください。そういたしますと、キーボードで入力いただいたりすとか、iPadの場合、ソフトキーボードで入力いただくことが可能でございます。さらに、左上のほうに「あ」というボタンがあるんですが、こちらを押していくと、手書きした文字を認識して信号に変換するというようなツールもございます。

決定を押していただきまして、コラボノートの操作ですね、お約束、ルールが1つあります、作業が終わりましたら登録ボタンを必ず押してください。こうすることで、今皆様が書いていただいた付箋が紙の上にぺたっと貼られました。さらに、ほかの御参加の先生方、学生の皆様が入力されたものが後からどんどん見えてくると思うんですね。入力いただいたものがこのように瞬時に可視化共有できるツールでございます。

もう一つ、後々のところで御紹介を差し上げたい機能がありまして、道具の右のところの文字の下の絵と図というタブがございます。こちらを押していただきまして、画像というボタンを選んでください。こちらもお好きなところをタップします。iPadの場合は撮影した写真をそのまま御利用いただくことも可能です。もしくはその他の端末でしたら、もともとお持ちの画像データを貼り付けることもできます。何も素材がないよという先生は、素材を選ぶというボタンを押

していただきますと、弊社のほうであらかじめ用意させていただいているサンプルのイラストがあります。こちらも同様に、書いていただいたら登録をしていただくと皆さんとのところに反映されるようになっております。

いかがでしょうか。何となく使い方を御理解いただけたかなあと思うんですけれども、該当するページの中で道具を選んで貼り付けて登録をするという、こういう一連の流れがコラボノートの使い方になっています。

練習はこのぐらいで、ちょっと進めたいと思いまして、幾つかちょっと事案をお持ちしています。今度、ページのところで2ページ目、②の夏のイメージというページを開いていただいてよろしいでしょうか。ここまでよろしいでしょうか。2ページ目の夏のイメージですね。先ほどまでは練習なんですが、今から皆様の夏から連想されること、ワード、事柄を付箋で一言だけで構いません、貼り付けていただいてよろしいでしょうか。

もう皆様、随分書いていただきました。今回、実は付箋の色に何もルールを決めずにお好きなものを選んでくださいという流れだったんですが、画面の上のところに、今、私、ルールの付箋を貼らせていただきました。日常生活はオレンジ色の付箋に替えてください。娛樂は青ですよということで、カタゴリーを5分類用意しています。付箋の色の変更方法なんですが、御自身で書かれたものをお選びいただきまして、鉛筆のマークの横の色がたくさん並んでいるような付箋のボタンがあるんですが、こちらから付箋の色を変更いただくことができます。ですので、皆様が入力いただいたものの内容が、例えば日常生活に関わることでしたらオレンジ色に変えていただくというような作業を行ってみてください。

タブレットですと非常に画面が狭いものですから、コラボノートのほうも通常のスマートフォンと一緒に、ピンチイン、ピンチアウトという操作をしていただきますと、文字を拡大して見たりとか書いたりということが可能でございます。

結構皆様、平均的にいろいろと御意見を書いていただいたみたいありがとうございます。こういう形で、極端な分類分けにならないケースもあります。緑が多いですかね。動植物、生物が多いような感じがしますので、こういう形で付箋を貼つてから分類分けなんていう使い方もできるようなツールになっております。

次ですね、ちょっとこの付箋の件はここまでにさせていただきたいんですが、今度、ページのところで④のところ、印をつけようというページを御準備させていただいております。これは、今まで書いたら皆さんで瞬時に共有いただけるというものだったんですけれども、今回、個別学習モードというものに切り替えています。問題が出ていると思うんですが、愛教大と名駅、名古屋駅ですね、にフリーぺんを使ってマーキングしてくださいとあります。

使い方をちょっと簡単にざっと御説明したいんですが、絵と図というところの中でフリーぺんというのがあります。こちらをタップしていただきまして、ここかなあというところで一度タップいただきますと、今ここに印をつけたんですけども、このように印がつきます。この状態で右下の登録ボタンを押してみてください。今回、この登録を2回していただくことになります。愛教大のおおむねの位置、場所と名古屋駅の大体の場所を見ていただきます。今ちょっと画面を切り替えたんですけど、先生のほうは全部の作業が見えてしまうので、答えが見えてしまうでちょっと隠しています。ポイントして登録ですね。大体で結構でございます。

それでは、皆さんの描いたものを手元で確認いただくということで、今は御自身の画面しか見えていないんですが、これから協働学習モードに変えます。そうしますと、どうでしょう、御自身の描かれたものと皆さんの描いたもの、でもこうして見ると、皆さん、愛学心をお持ちだということで、割と愛教大さんの位置、場所はよく御存じなのかなあという感じがします。名古屋駅はちょっと難しいですね。さすがですね。西尾にマーキングされている方もいらっしゃるみたいな。西尾幸田町さんですかね。

大体こういう使い方ができるようになっています。ですから、コラボノートの場合、ただ単に可視化共有というわけではなくて、まずは個別で学習された後に、協働に持っていくという使い方もできるようなツールでございます。

ここからグループワークのほうに移りたいと思います。こちらからが本番になりますので、一旦ここまで状態で、右

上のホームのボタン、家のボタン、オレンジ色のボタンがあると思うんですが、こちらを押していただいてもよろしいでしょうか。

では、まず今回のグループワークの御説明から進めていきたいと思うんですけども、この後、皆様それぞれのルームに移っていただきます。これ、今T e a m sが全体で共有しているんですが、T e a m sのほうも小部屋をつくりまして、その中で運用、グループワークを行っていただくことになります。

その中に実はお題目をそれぞれ御用意しているんですが、まず、事前に齋藤先生のほうからも御依頼があったと思うんですけども、テーマは愛教大みいつけた！ということで、小ネタをまずみんなで共有していただきます。それぞれ愛教大のこんなのが見つけたよとか、場所がここにあったのが移動しちゃったよ、例えばこれを見ると、実はカバの銅像が移動していましたなんていうネタが実はありましたね。カバが動いたなんてありますけれども、銅像と思っていたら、実は生きているんですというような、こういうネタを集めていただきまして、今度、新聞サンプルということで、こういう形で愛教大みいつけた新聞というものを作っていただきます。その中で、カバが動いたというネタ、それに対する写真であったりとかクイズコーナーとかということでサンプルがあるんですが、このような形で皆様、愛教大見つけた新聞を作っていただきます。

そのときに、実はまず小ネタの共有の写真を新聞に持ってきたりという、コピーをするという作業が発生するんですけども、こちらの方法をちょっと簡単に御紹介したいと思います。1つは、まずこのようにコピーしたいものを選んでいただきます。そこに、左から3番目の紙が2枚重なっているようなボタンですね、こちらを押していただきますとコピーされます。持つていいたいページに移動していただきまして、今度、分かりづらいんですが画面の左下のところにペーストボタンがあります。そうすると、クリップボードにあるものが10個まで覚えていて、この付箋をずるずると貼り付けたいところに持ってきていただけるとペーストができます。この手順もT e a m sのほうのファイルにアップロードさせていただいているので、もしオンラインの方で御不明な方はそちらから御参照いただけたらと思います。

この後は、梅田先生のほう、よろしくお願ひします。

【梅 田】 そうしましたら、今のグループワークに入りたいと思うんですけども、会場の方は既にグループ、このグループでそのルームにお入りください。それからT e a m sの方は、これから齋藤先生のほうから説明がありますので、そちらに従ってください。

【齋 藤】 では、T e a m sの方に向けて説明をさせていただきます。

まず、T e a m sの参加の方のグループ分けですけれども、事前にちょっとお送りしたものと、当日の参加状況で変更になっております。こちらの画面をちょっと確認いただいて、自分はルーム1である、自分はルーム2であるということをよく確認をお願いいたします。少し確認していただく時間を取ります。このメンバーの番号は、コラボノートのIDになります。

このルーム1、ルーム2というのが、こちらのノートのほうのワークショップルーム1、ルーム2に対応しておりますので、それぞれコラボノートのルーム1の方はルーム1のノートを、ルーム2の方はルーム2のノートを開くということでおよろしくお願ひいたします。

続いてブレイクアウトルームについてです。

これから、今のT e a m sのところからブレイクアウトルームという小部屋に5名から6名で分かれてワークをしていただきます。ブレイクアウトルームへは、今後、この後自動的に切り替わります。その際にこちらのようにブレイクアウトルームセッション開始されましたというメッセージが出ますので、少しお待ちください。

各ルームへ移動しましたら、マイクやカメラをオンにしていただき、ワークのほうを進めてください。そのメンバーだけになりますので。

もし、コラボノートの操作方法などが分からぬ方がグループの中にいらっしゃる場合は、どなたかの画面をこちらの青いところで示してある画面共有のボタンで共有してやっていただくとよいかと思います。

もう一つ、ブレイクアウトルームについてです。

指定時間になると、自動的に元のルームに戻ります。私からももう少しで終わりますというようなアナウンスをさせていただきます。困ったことなどがありましたら、会議チャットのほうで、この後始まってから私がワークを進めてください、始めてくださいというアナウンスを全体に流しますので、その後、会議チャットから投稿いただくとこちらに届くようになっています。また、途中、主催者側がグループを巡回するかもしれません、皆様で進めていただければと思います。

では、もう一回ちょっと確認です。皆さん、どちらのルームかというのを確認いただけましたでしょうか。

では、これからグループ、ブレイクアウトルームのほうを始めていきたいと思います。

では、開始していきます。

(グループワーク)

すみません、T e a m s の先生、マイクをオンにされている方がいらっしゃると思うますが、オフにしてください。今、元のほうに戻ってきました。カメラなどもまたオフにしていただいても大丈夫です。

【講師（朝倉）】 先生方、すみません、時間があつという間に過ぎてしまっております。

今のT e a m s の画面で、皆様が作っていただいた新聞を共有させていただいているんですけども、こちらのグループはすごく短時間でほぼほぼ4升埋められたのかなあというところだと思います。

和麺メニューですかね、これ学食の何かメニューなんでしょうかね。去年まで当たり前にあったんだけれども、コロナの影響でなくなっちゃったよというお話だと思います。もう前期も終わるというこのタイミングでハンズに復活しましたということで、貴重な情報をいただきましてありがとうございます。もう夏休み、夏季の休暇に入る前に楽しめるとよろしいですね。

これはまた、あれですかね、カエルの手のアーチがあります。夏は涼しげに葉を揺らし、秋は赤く色づき心が弾みます。ぜひ一度見上げてくださいというお言葉をいただいています。これ、どこにあるんでしょうかね、すごいですね。

自然科学棟がリニューアルしましたよ。外観が見違えるほどきれいになりましたということで、1階には新しく学習スペースもできたよということで、ぜひ皆様、近くにお立ち寄りの際は寄られるといいかかもしれません。

ありがとうございます。こちらのチームも、やっぱり相当おいしいんでしょうね、うどん・そばが復活したよということで教えていただいています。

ちょっと寒けのする話も共有いただいている。教職員の駐車場にミミズが大発生ということで、あと第一共通棟にはワラジムシがたくさんいらっしゃるんでしょうかね。ありがとうございます。近くをお通りの際は、ぜひ気をつけて歩いてください。

こちらはオンラインで御参加いただいた方からのすごく丁寧な仕事ぶりがちょっと見受けられるんですが、先ほど話題に出していました自然科学棟の改修に伴って、中がすごくきれいになったよということで、何かトイレもすごいあれですね、ホテルのロビーにあるようなきれいなトイレですね。T O T O でした、ありがとうございます。型番までいただいているので、よほどお好きな形だったんでしょうね。

中庭にはウッドデッキができて、「変な」というのがちょっと気になりますね。

周辺は引っ越しモードですということで、どうも先ほどのミミズとちょっとリンクしてしまっているんで、ミミズの引っ越しという頭になってしまっているんですけど、何かこの近隣がかなり変わってきたのかなあという感じですかね。

自販機のニュースまでいただいている。特別支援教育棟のそばに自動販売機が設置されましたということで、もう本当に外を一歩歩けば真夏ということで、水分補給ができる場所が増えたんでいいかと思います。

たくさんありがとうございました。すみません、本当に短時間で、皆さん、御無理を言いましたが、面白い記事をいただきましてありがとうございます。多分、今日初めて知ったよという内容もあるかと思いますので、ぜひ皆さん共有いただいて、愛学心を少し高めていただけたらと思います。

何かうちのやつぜひ見てよというのがありましたら、まだ御紹介していないものであります。ありがとうございます、2の共有ですね。ありがとうございます。天体望遠鏡の解説がありますね。かなり立派な新しいものができたんでしょうね。60センチ、ごめんなさい、ナスマス式と書かれています。右のほうに、土星の輪っかが見えるそうですね。どのぐらいの距離があるんでしたかね、土星というと。すごい。

あれですね、セブンイレブンさん、ちゃっかりしていますね。自動販売機にも自社のPRをされているみたいで。面白い情報をありがとうございます。

ただ、ちょっと括弧書きが残念ですね。いつも欲しいものがないんですというような。

自動販売機ネタ、かなり、Coke Onが使えますよ。カード決済、いろいろあると便利ですね。

意外と、知る人ぞ知るというのがこういうところだと思うんですね。美技家棟の装飾がすごくかっこいいよ、きれいだよというところを御紹介いただきました。

農園の野菜も……。

無断駐車ですね、これはよくないです。

ありがとうございます。ちょっと見てはいけないものもあった感じはするんですけども、このぐらいでグループワークの御紹介は終わりにしたいと思います。

すみません、続いて今度はコラボノートなんですが、実は今、愛知教育大学様のほうで既にお使いいただける状態になっております。この後、正木さんのほうから使い方の御説明もあるかと思うんですが、コラボノートの使い方をちょっとだけ御紹介したいと思いますので、まず皆様、今御参加いただいたらしく文字を書いていただいたらしくした場所をどうつくるのかというつくり方をちょっと御紹介したいと思います。

まず、コラボノートのほう、先生用のほうでログインをしていただきまして、「ノートを作る」という作業を先生のほうでやっていただきます。コラボノートの発想も皆さん、お分かりかと思うんですけども、発想がデジタル模造紙という感覚の商品ですので、真っ白な白い紙をつくるということもできますし、例えば思考ツールなんていうことで、分類するなんていうところで、ベン図だとか、ごくごく一般的に使われている25パターンは全て網羅しております。例えばこちら、ベン図を選んで次へということで、まず先ほど皆様方でワークショップのルーム1とか2とか9とか選んでいただいだと思うんですが、そちらの名前をまず決めていただくんですね。こちらの名前は参加者の方が分かりやすい名前をつけていただくというような工夫をしていただけるといいかと思います。今回はごめんなさい、このままやらせてもらいます。

模造紙のページなんですが、先ほど左のほうにページが5ページとか6ページぐらい大体あったと思うんですが、最大100ページまで準備できます。ですから、冒頭に御紹介した個別学習のモードを使っていただきまして、個人のワークシートとして換算すると100人分のノートができますよというような使い方もできます。

それで作成をしまして、こちらがコラボノートのよいところと、ごめんなさい、手前みそではあるんですけども、実は参加メンバーを制限できるんですね。例えば、あるゼミの中でしか使わせたくないよというような使い方もできます。この場合は所属を選んでいただきまして、今回7年のワークショップクラスで皆さん入っていただいているとは思うんですが、このようにワークショップクラスだけが参加できますよというような、クラス単位の所属の選択方法ですとか所属するクラスの中でさらにこの子だけよというようなユーザー単位の参加メンバーの選択というパターンがございます。ユーザーをそれぞれ選ぶのが結構最初大変なんですね。頻繁にお使いになられる場合につきましては、あらかじめ、例えば○○ゼミというようなグループをつくっていただきまして、そこのグループに所属するユーザーをあらかじめ登

録していただくと結構便利に使ってもらえると思います。今回そのまま、すみません、皆さんができるようにしたいと思います。

あと、授業期間の設定なんですけれども、こちらは今からどのぐらいの時間を使いますかという設定がこちらでできるようになります。ちょっと1時間で自動消滅するようにつくりたいと思います。

このような形でノート作成が完了します。先生でログインしていただきまして、ノート作成から進んでいただくと、どうしますか、どうしますかということでウィザードで簡単におつくりできるようになります。実際に参加メンバーに入っている方々はログインしたときに授業中のノートから選べるようになります。これだけの操作で実はノート準備の完了ができますので、ぜひ皆様、使っていただけたらと思います。

あとは、先生ならではの機能を少し御紹介したいと思うんですけども、実は模造紙の上に、例えば課題を記入して何かを書いてくださいねというような展開の場合なんですが、参加者の方と同じ階層ですと、実は参加者の方が誤って選んでしまったりとか移動してしまったりとか、はたまた消しちゃったりということを考えられるんですね。その場合に、実はコラボノート、レイヤーという考え方を持っていまして、背景のところに課題をつくっていただきまして実践をいただきますと、参加者の方は見えるんですが触ったり移動したりできないようなモードになります。ですから、もう触られたくないような課題等々がありましたら、背景に入れていただきましてお使いいただけるとよろしいかと思います。

あと、デジタルの実はよいところでもあり、悪いところもあるんですけれども、例えば成果物の提出を求められたときに、出した子か出していない子かどちらかだと思うんですね。いわゆる1かゼロかなんですかけども、その途中、過程の評価が難しいことが多いと思いますが、コラボノートにおいては履歴一覧という機能があるんですけども、実はページごとににはなるんですが、誰がどんなことをやったよというのを全ての作業を覚えています。これ、ページの中の全ての参加者のちょっと触ったよ、移動したよ、消しちゃったよというのが全部残るんですが、この中で特定の方が何をやったかというのは後から追うこともできるんです。

つい本当に昨日の出来事なんですが、ある学校の先生、コラボノートのお客様から電話があったんですけども、授業をしている中で、A君が書いたものをB君が勝手に消しちゃったということが起こりました。本当、丸っと昨日の出来事なんですが、1回に限らず、実はよく履歴を見たら全部で四、五回消しているんですね。書いたのに消している、書いたのに消しているという。後からちょっと問題が起きて、コラボノートを見ていただいて、先生のほうが御指導に入ろうという段階で、念のため弊社のほうに電話がありました。この情報って本当に合っていますかということで問合せがあつたんですが、コラボノート、ソフトウェアですので、コラボノートに不具合がない限りはこのデータは正確ですよということで、今後、こういうことが起こる前に、先生全部見ているよということをおっしゃるといいかもしれませんねということで、お話はちょっとまとまっているんですが、そういう用途にも使ってしまうんですね。結果、提出物を出していなかつたんですが、いろいろ苦労の跡が見えるねというような使い方がこちらでできるようになっております。

一応、先生ならではの機能をちょっと幾つかピックアップして御紹介をさせていただきました。

最後に、実践例というので幾つかちょっと御紹介を差し上げたいと思います。弊社のほうも、小・中学校のお客様が非常に多いものですから、先生方がアドバイザーの立場で学校さんの方に入られることがあるかと思いますので、参考までにちょっと御紹介したいと思います。

このようにグループでパンフレットを作ろうということで、四国の紹介パンフレットを作ってもらいました。これ同時に作業ができるので、時間短縮という効果が期待できると思います。今、皆様に作っていただいた新聞なんかもこういうイメージですね。

あと、あなたはどう思いますかということで、小・中学校でいくと道徳の授業なんかをイメージしていただくとよろしいかと思うんですけども、モラルジレンマのお題に対してこう思うよというようなことを書いてみんなで共有して、やっぱり考えが変わったから僕はこう思うよというところを瞬時に可視化共有いただくというような使い方も面白いと思

います。

あとは、このように単純に秋田について教えてねということで、観光についてということとお土産についてということであらかじめ色にルールを決めて書いていただいているものですね。もし時間があれば、刈谷のお土産とか教えていただこうかなあと思ったんですが、今日はちょっと時間が取れそうもないで割愛したいと思います。

あと、こういう形で朝食はパンか御飯かという、本当に単純なものなんですが、こうやって見るとあれですね、実はこれは秋田の仙北市というところのアンケートだったので、圧倒的に御飯食が多いみたいですね、赤いところ。皆様、やっぱりおいしいお米を自負していらっしゃるようで、あきたこまちという言葉が結構ちらほら出ています。

コラボノートの特徴が、実は次のページを見ると内容一緒なんですが、強調したいところだけを色を変えたりとか文字を大きくしたりとかいうことができるようになっているんですね。

今、こういった協働学習のツールを幾つかリリースはされているかと思います。例えばグーグルなんかでいくとJamboardなんていうのもあるんですが、ああいったものだと、実は文字の大きさは全体を変えるか変えないかというレベルなんですが、コラボノートは全体の中で、さらにこの部分だけを強調するなんていう使い方ができますので、書いた方の意思とか意図が見えるようになるかと思います。

こちらも反対・賛成にルールを決めてやっていただいているだけですね。こういった座標軸についてなんていうことで、節電について実践できそうか、なかなか実践が難しいかなあというところ。自分自身で取り組めるのか、みんなでやらないといけないのかというところですね、座標軸で表しています。

先ほどレイヤーということで、背景にこういう素材を置いていただきまして、これに対しての意見を求めて共有しているといふような事例なんですね。最近ですと、本当にS A R T R A Sなんていうことで、著作権の問題も多々出てきていますので注意が必要であると思うんですが、弊社のほう、実は著作権フリーの素材集も持っておりますので、もし御入り用でしたら皆さんどうぞおっしゃってください。

このような形でクラゲチャートを使って、電車は便利であるということに対して、何でというところを書いているんですが、このグループは最後の1個がなかなか出てこないんですよね。何か、これをワークシートにしても面白いのかなあと思いました。

もう一つ、コラボノートの特徴としまして、学内に限らず、外と交流いただくための交流サーバーを実は弊社のほうで準備しているんですね。ですから、これはお客様であれば、相手方がコラボノートをお持ちでなくても交流いただくことができるサービスになります。今回の場合は、愛知教育大学様のほうでライセンスをお取りいただいているので、例えば海外の学校とコラボノートを使って交流いただくこともできます。ですので、遠慮なくこの辺お申しつけいただけたらと思います。岡崎の小学校の先生なんかは、毎年海外とどこかしら交流されている学校さんもありました。

これは、沖縄の宮古島ですね。ちょうどアメリカの方と結婚されているグリー・マキコ先生という先生がいらっしゃって、その先生が旦那さんのつてでアメリカの学校さんと歌の交流をしたんですね。日本のジングルベルはこうだよ、アメリカはこうだよというのを相互に伝え合ったりとかですね。アメリカのロッカーテ日本と全然違うんですね。アメリカの方が後ろにある蜂の巣みたいなもの何という質問があったそうです。というような、こういう使い方ができますので、本当に時間があればいろいろ御紹介はしたいところなんですが、すみません、大分時間押してしまって大変恐縮です。私のほうからの話はこのぐらいにしたいと思います。どうもお付き合いありがとうございました。すみません。

【司会】 ありがとうございました。

それでは、あまり時間はないんですけども、少しだけ質問、御意見等をお伺いしたいと思うんですけども、T e a m sの方は挙手していただくか書き込んでいただきたいんですけど、会場のほうから何かございませんでしょうか。

質疑応答部分については個人情報を含むため削除

【司 会】 すみません、それではちょっと時間になりましたので、この辺で終わらせていただきたいと思います。

最後に、告知のほうをお願いいたします。

【正 木】 アクティブ・ラーニングプロジェクトの正木と申します。お疲れさまでした。

今日、御覧いただいたコラボノートなんですが、授業で実際に使ってみたいなあということでしたら、私どものアクティブ・ラーニングプロジェクトのほうへお申込みいただけますと、例えばこの50人のクラスで使いたいよということでしたら50人分のアカウントを発行して先生にお知らせするというような形になります。

ただ、今現在契約しているのが生徒数で400ユーザーまでというので契約していますので、それをちょっと超えることはできないので、早い者勝ちと言ったら変ですけど、そういう感じです。なので、今お願いしているのは、学期の間、ずっとともうどこかのクラスで使い切りというわけじゃなくて、三、四回使うだけでしたら、例えば1か月だけとか、そういう感じで使ってどんどん回しているというような使い方で回しています。今日もこれで何十名か登録しているんですけど、今回の場合は、特に今、どんどん申込みがあるわけではないので、1か月ぐらいのまま置いておこうかなあと思いますので、ちょっと生徒アカウントなので、先生ではないのでちょっと使い勝手はあれかもしれないんですけど、またお時間のあるときに試していただければと思います。

そんな感じなんですが、あとアンケートなんんですけど、今日のアンケートのお願いがあります。アンケートはあちらからQRコードが出ていると思いますので、そちらから入っていただいてアンケートをお答えいただければなあと思います。

何か分からぬことがありますら、ぜひalpj-soudan@m.auecc.aichi-edu.ac.jp、こちらのほうにお問合せくださいばなるべくお答えするようにいたしますので、ぜひよろしくお願いします。ぜひコラボノートを御利用ください。

【司 会】 ありがとうございました。

そうしましたら、最後の最後に閉会の御挨拶を教職キャリアセンター副センター長の飯島先生からお願いいたします。

【飯 島】 失礼いたします。

今日は本当にどうもありがとうございました。

いろんなことを実感させてもらったなあと思っています。個人的には、やっぱり今年の4月から学校教育、小も中もGIGAスクールだからあまり変わっていないということもおっしゃる方もいるけれども、でもタブレットが1人1台入り、Wi-Fiが使えるような学びが日本全国どこでも最低限保障されているというのはすごい大きな変化だと思うんですよね。それに伴って、高校のほうもいろんな形でそういったものが当たり前に変わりつつあります。

もちろん本格的に変わるのは、入試が変わるとかいろんなところがあるかもしれませんけれども、やっぱり例えば、今すごく実感したのは、これぐらいの快適に動くのが、ブラウザの上だけで十分動くんだというのが、すごくソフト開発も進歩したなあと思います。

例えば、さっきもお話がありましたけれども、我々教員養成大学という話でいくと、いろんな学びの在り方をICTを使ったらどうできるかというのを多くの学生が体験して卒業していくようなことをぜひと思うんですけども、例えばさつきみたいなスタイルでいけば、各授業で何時間かワークショップ的に体験するみたいなことを、学生は自分の例えばサーフェスを使って、このクラスがこのID、パスワードをこの期間だけ使おうねみたいなことをローテーションでやっていくようなことを、例えばこのソフトもそうですし、幾つか代表的なものを4年間の中で体験していくことを標準にしていくと、学校現場の中でも学びの在り方というのはかなり変わっていくのかなあと思いました。

今日ここでも、あまり会話ができなかったのはよくないんだけど、でも何か作品づくりに熱中しちゃって、壁新聞的な

形でみんなの思いを共有するとか、あるいは先ほどもありましたけれども、協働スタイルのほかに例えば、どう、名古屋駅の場所自信あった。あれ、答え合わせまでちゃんとできると、ああしまったとかと思ってよかったですかも知れないけれども、何かそういうことが結構楽しく、最近よく学びの個別最適化という話の中で、何か自由学習的な話がついつい言われますけれども、さつきみたいな仕掛けの中で、やっぱり集団でこそできる、もちろんその中には学校にいるからこそもあるけれども、学校に来られないケースの場合の子たちとうまく連携しながら、今日もオンラインで参加するケースもありましたけれども、ああいった形というのをやっぱり我々の次の学生にも伝えていく一つのスタンダードとして体験するという会が今日できたのはすごくよかったですかなあと思います。また今後とも、センターのFDを含めていろんな形で、ぜひ愛教大を次のところにアップデートする上でいろいろと一緒に御協力いただければと思います。

今日は本当にどうもありがとうございました。

【司会】 ありがとうございました。

じゃあ、これをもちまして本FDを終了したいと思います。御参加いただきました皆様、あと講師の先生、ありがとうございました。